

# 平成28年度 「中学生チャレンジテスト」における 大阪市立白鷺中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成29年1月12日（木）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

## 2 調査の対象

- 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- 大阪市立白鷺中学校では、第1学年171名、第2学年219名

## 3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語  
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

# 平成28年度「チャレンジテスト1・2年」検証シート

学校名 **大阪市立白鷺中学校**

実施日 平成29年1月12日(木)

【第1学年】

生徒数(人) 171

平均点(点)

	国語	数学	英語
学校	69.0	55.5	62.8
大阪市	67.0	50.6	60.8
大阪府	68.3	52.5	62.7

平均無解答率(%)

	国語	数学	英語
学校	2.7	4.8	4.0
大阪市	3.6	6.2	5.0
大阪府	3.4	6.1	5.1

結果の概要

平均点は以下の通りである

国語は大阪市より2.0p、大阪府より0.7p高い。数学は大阪市より4.9p、大阪府より3.0p高い。

英語は大阪市より2.0p、大阪府より0.1p高い。

平均無回答率は全教科大阪府・市平均よりも下回っている。

成果と今後取り組むべき課題

国語はチーム・ティーチング、数学は分割授業、英語は習熟度別授業を実施し、この応じた指導やICTを活用した授業に取り組んでいる。また、また、可能な限り一学年を複数の教員が担当する「タテ持ち」や「目標とポイント」を明確にした授業を展開することで、学力の向上につとめている。

今後は、国語の「書くこと」、数学の「関数」、英語の「聞くこと」の力を伸ばす授業を展開していきたい。

【第2学年】

生徒数(人) 219

平均点(点)

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	56.6	42.6	49.8	59.4	52.0
大阪市	56.9	43.1	49.6	59.3	51.3
大阪府	58.1	43.8	51.3	60.2	53.3

平均無解答率(%)

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	6.7	10.6	12.3	5.7	7.4
大阪市	6.9	10.6	13.0	5.9	7.2
大阪府	6.3	10.3	12.6	5.8	6.8

結果の概要

平均点は以下の通りである。

国語は大阪市より0.3p、大阪府より1.5p低い。社会Aは大阪市より0.5p、大阪府より1.2p低い。

数学は大阪市より0.2p高く、大阪府より1.5p低い。理科は大阪市より0.1p高く、大阪府より0.8p低い。

英語は大阪市より0.7p高く、大阪府より1.3p低い。

平均無回答率は英語を除き、大阪市平均と同等もしくは下回ったが、大阪府平均は上回った。英語は大阪市平均、大阪府平均ともに上回った。

成果と今後取り組むべき課題

国語・数学・英語において、必要に応じて、習熟度別少人数授業やチーム・ティーチングを実施し、個に応じた指導を行っている。また、社会・理科においては必要な資料や動画等をICT機器を活用し、よりわかりやすい、視覚に訴えた授業を心掛けている。また、可能な限り一学年を複数の教員が担当する「タテ持ち」や「目標とポイント」を明確にした授業を展開することで、学力の向上につとめている。

今後は、国語の「書くこと読むこと」、社会の「地理的分野」、数学の「数と式」、理科の「化学的領域」、英語の「読むこと」の力を伸ばす授業を展開していきたい。